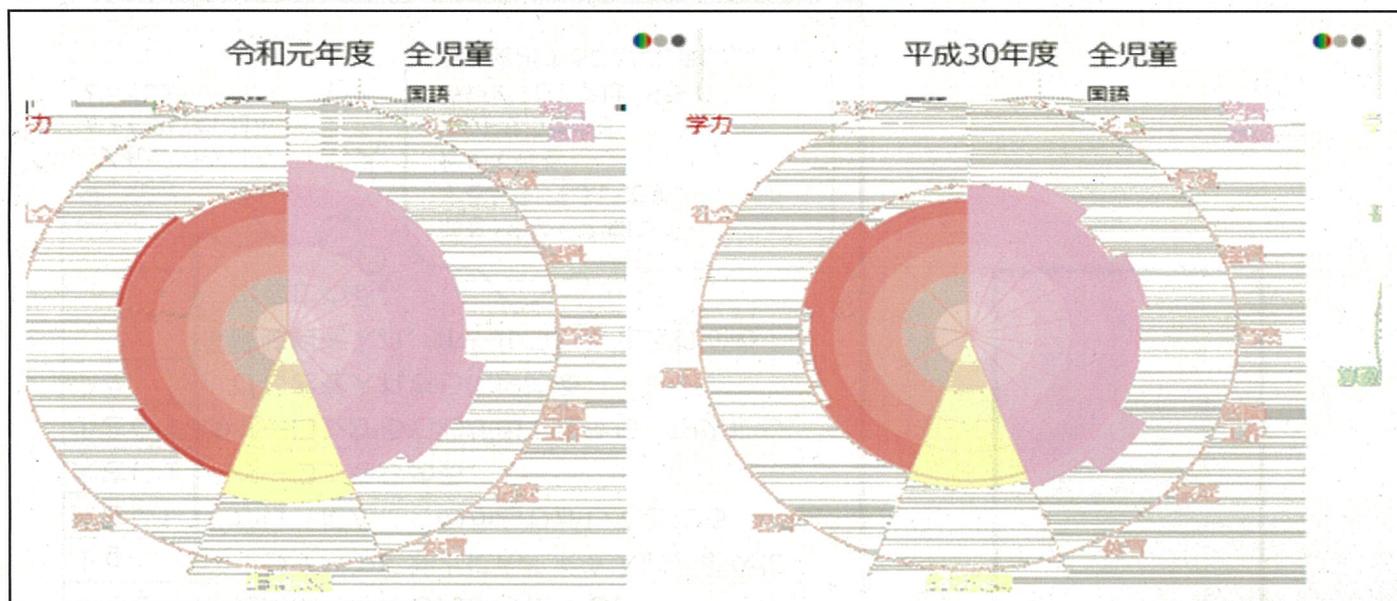


令和元年度 横浜市学力・学習状況調査のまとめ

「横浜市学力・学習状況調査」の結果から、本校児童の学習状況および生活・学習意識等の傾向が明らかになりましたのでお知らせいたします。この結果を今後の学習指導や教育活動に生かしていきたいと考えています。



【全体の経年変化】

上のチャートは平成30年度と令和元年度の市学力・学習状況調査の全体チャートであり、円を3等分して上部には各学年の学力を、右下には各学年の学習意識を、左下には各学年の生活意識の状況を同心円を使った扇形の面積で表している。破線の円周は、市平均正答率や市平均通過率を表し、それを上回っているところは色が濃くなっている。

(1) 結果の概観

学力について、市の平均を越えている学年は、現2年と現5年、他学年は市の平均未満である。30年度と比較し、全校としての結果は、全体的に伸びが認められた。生活意識や学習意識に関しては、どの学年においても、概ね市の平均値を上回っており、30年度と比較しても伸びがみられた。特に現3年の伸びが顕著であった。そのため学習に対する意義や必要感をもたせ、達成感や満足感を体験させて自己実現へとつなげていくことから始め、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図りたい。今後も算数科を中心とした個に応じた指導や各教科における総合的、横断的な学習も必要であると考えます。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：標準化得点は98.3～101.7 多くの学年で話す・聞くはおおむね良好。知識・理解・技能が課題。
- 算数科：標準化得点は98.8～100.8 多くの学年で技能はおおむね良好。数学的思考方が課題。
- 社会科：標準化得点は99.2～102.2 多くの学年で知識・理解は良好。技能が課題。
- 理科：標準化得点は99.4～101.5 多くの学年で技能が良好。知識・理解が課題。

※標準化得点とは、実施年度の市平均正答率を100と見たとき、南台小の児童の平均正答率（各学年ごと）が何点と見ることができるかを示した数値。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習意識・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、学力においては、昨年度までより上向いている傾向にあり、学習意識や生活意識に関しても、全体的に高まってきている。現2年生は、すべての項目で平均を上回っている。現5年生も、ほとんどの項目で平均を上回った。他学年は平均に満たない教科もあるが、どの学年も上回る項目があった。社会科、理科は昨年度に続いて市平均と同等もしくは上回る結果となっている。国語科の「知識・理解・技能」、算数科の「数学的な考え方」などにおいて課題が見られるため、朝学習や授業の演習を更に充実させ、基礎的・基本的な力を養っていくとともに、言語活動を重視した授業改善によって改善を図りたい。